

菊本副院長の漢方問答 その64



問 「生活習慣病の漢方治療とはどのようなものですか？」②

答 肥満と関係が深い「糖尿病」「高血圧」「脂質異常症」などの生活習慣病に関する漢方治療について、日本東洋医学会が出版している「漢方医学テキスト」には記載されていますが、当院でよく処方されるお薬に関して、お話しています。

今回は、「四物湯」という書物で紹介されています。構成生薬は、当帰、地黄、芍薬、川芎です。もともとは、女性の体調を調えるお薬で、気の流れや血の流れを調べて、生理を順調にし、お腹の痛みにも効果があります。不正出血や血の塊にも有効です。妊娠中に冷えたりして、調子を崩し、胎動が不安定で、出血が止まらないときにも使用します。また、産後、からだが弱っているときに冷えたり

して、出血が止まらなかったり、血が固まったりして、下腹が堅くなって激しく痛むときにも使用します。

図1は、私の漢方の師匠が描かれた四物湯の腹証図です。下腹に注目してください。血の流れや水の流れるが悪いために、触ると堅くなり、押さえると痛みがあることを表しています。

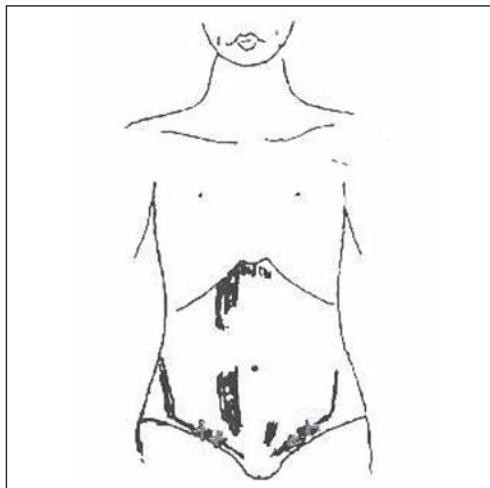


図1

甘草を加えた処方です。芍薬膠艾湯も、四物湯と同様に、もともとは、女性の体調を調えるお薬です。やはり、下腹に所見があります。

生活習慣病では、下腹の血の流れや水の流れるが悪くなっている方がたくさんいらっしゃり、四物湯や四物湯を構成成分として含むお薬（温清飲など）を処方することがよくあります。女性だけでなく、男性にも処方しています。

図2は、江戸時代に出版された「腹証奇覽」に掲載されている「芍薬膠艾湯」の腹証図です。芍薬、

艾湯は、四物湯に、阿膠、艾葉、



図2